

事業概要

幼児期は身体を動かす遊びを通して、多様な動きの獲得や体力・運動能力の基礎を培うことから、就学前の取組との連携を図りながら、小学校、中学校の9年間を通じて計画的・継続的・合理的に体力・運動能力向上の取組がどの学校においても行われるよう、それぞれの体力要素を段階的に高めることができる指導資料を作成する。また、体育・保健体育の授業や体育的活動など、学校教育全体を通して計画的に資料の活用を促すことにより、包括的に体力・運動能力の向上を図る。

期待される効果

体育・保健体育の学習内容と発達段階に応じた体力・運動能力の向上とを関連付けた指導資料の活用を通して、全ての学校において計画的・継続的・合理的に児童生徒の体力・運動能力が向上する。

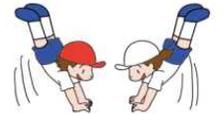
現状・課題

- 小・中学校の体力・運動能力は全国水準を維持しているものの、全国平均を継続的に上回るまでには至っておらず、体力総合評価DE群の増加が見られる。
- コロナ禍における長期間の臨時休業及び外出の自粛に伴い、活動量の低下による児童生徒の運動不足や体重増加、運動習慣等生活リズムの乱れが見られる。

【参考】体力総合評価DE群の割合を前年度の県平均と比較すると、小学校では男子が4.4%、女子が0.1%、中学校では男子が4.4%、女子が2.9%上回っている。
(「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」スポーツ庁)

事業目標

- ◆「学校経営計画」における「体」の目標達成に向け、本資料の活用を行う学校の割合
小学校・中学校ともに100%。
- ◆各小中学校の体力向上
県の体力合計点が小・中学校ともに継続的に全国平均を上回る。
- ◆体力総合評価DE群の児童生徒の割合の減少
H28～R元年度の平均値から3ポイント以上減少させる。
(平均値…小学校:男子32% 女子24% 中学校:男子29% 女子14%)



実施内容

令和2年度の取組

- プログラム(初版)の作成
・体力・運動能力を包括的に向上させるために発達段階に応じて行ってほしい運動(動き)を、「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」としてまとめる。
- プログラム(初版)の公開
・HPで公開するとともに、地教委及び各小中学校に配布し、授業での活用を促す。
- 学校経営計画「体」の取組への位置付け
・全ての学年で活用するよう、地教委を通じて各学校に依頼する。

令和3年度

1. プログラム作成委員会の開催(3回)
構成員(9名)・・・大学関係者、小学校・中学校・高等学校の各体育連盟、県スポーツ科学センター
・内容と活用方法の検討
2. こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム解説書及び実技動画の作成
・運動の行い方や指導のポイント、運動の工夫例、関連する体力要素等、プログラムの詳細を説明する。
・撮影した実技動画をHPで公開することにより、1人1台タブレット端末での視聴を可能にする。
3. プログラムの説明・活用の推進
・体育主任研修会での周知
・学校訪問時の公開授業における活用
・体育授業改善プロジェクト研究協力者によるモデル実践



令和4年度

体力・運動能力向上プログラム普及・定着事業(新)

1. 実践モデルの構築
・学校体育推進リーダーによる授業実践の公開
2. 教職員研修
・体育主任会での周知及び実技研修、校内伝達
・夏季実技研修会、センター年次研修、要請訪問
3. 体力・運動能力向上推進モデル校(2校)
・プログラムを活用した組織的な取組
・指導方法の紹介、児童対象の授業への支援
4. 運動習慣形成に向けた取組との連携
・「こうちの子ども体力アップチャレンジランキング」への位置付け

令和5年度

プログラム普及・定着事業

1. 実践モデルの構築
・授業実践の公開
・3つの資質・能力の育成及び1人1台タブレット端末の効果的な活用も踏まえた実践
2. 教職員研修
・プログラム未実施の学校での校内研修等の実施
3. 推進モデル校
4. 運動習慣形成に向けた取組との連携



■「幼児期運動指針」に沿った幼児期の身体を使った遊びの実施、「運動遊びプログラム」の活用等、就学前の取組との連携